

狂言「しびり」

急な来客の接待のため、主人は太郎冠者に今から和泉の堺まで買い出しに行くように命じます。一回無理を叶えてしまうとそれが普通になってしまうもの。考えた末に太郎冠者は持病のしびりが起こったことになって門前で騒ぎお使いから逃れようと思いますが、主人の方が一枚上手…

狂言「蝸牛」

叔父の更なる長寿を願う主人は、長寿の効用があると噂に聞いた蝸牛を捕まえて来るように太郎冠者に命じます。

蝸牛を知らなかった太郎冠者は「頭が黒く、腰に貝を着け、時々ツノを出す物」という特徴を頼りに藪へ向かい、そこで黒い頭巾を被り法螺貝を着けた山伏に出会います…

狂言「舟船」

気分転換に西宮へ行く主人と太郎冠者。神崎の渡で、渡舟を「フナ」と呼ぶ太郎冠者を主人は「フネ」と呼ぶようにたしなめます。「フネ」が正しいのか「フナ」が正しいのか。

和歌まで引き出して言い争いますが、いつの間にか主人の方が不利に…世の中必ずしも正しいければ良い訳ではないという教訓です。

狂言「蟹山伏」

大峯・葛城山での修行を終え、故郷の羽黒山へ下る山伏と従者の強力。慢心した山伏が道中で蟹ヶ沢へ差し掛かると急に天候が悪くなり不穏な空気になります。里へ急ぐ二人の前へと蟹の精が現れ、立ち向かった強力の耳を挟みます。

狂言「首引」

剛勇無双で知られる鎮西八郎（源為朝）に縁の者が、播磨の印南野で鬼に出くわしてしまいます。鬼は娘の食い初めにぴったりの美男子が来た喜び、溺愛する姫鬼を呼び出します。鎮西は姫鬼と命をかけて勝負をすることになります…

狂言小舞「土車」

大蔵流狂言の世界で、最初に学ぶ小舞。国の安全を願う舞ですが、基礎の所作、謡い方がしっかり散りばめられる課題曲です。

狂言小舞「福の神」

長い曲ではないのですが、足拍子は全小舞屈指の難曲。また人が生きる為の、些細な心持ちを狂言らしく伝える歌詞にも注目です。

書き下ろし狂言「かみあそび」

京の都と江戸から来た観光客が、登貴姫や町の人々に案内され、小田の燈籠まつりや五十崎の風合戦、木蟬や和紙などの伝統行事や特産物に触れながら、内子町の歴史に触れて学びます。自分たちの着ている着物が内子産の和紙であったことに気づいた二人の前に、「少彦名命」が登場し所縁を物語り、内子の町の発展を祝福します。最後は大蛇退治の神楽で締めります。

茂山千三郎による内子座創建百周年を記念した新作で、狂言くらぶの子供たちによって毎年上演されています。

狂言「延命袋」

恐ろしい妻が実家に帰省したのを幸いに、夫は太郎冠者に後から離縁状を届けさせます。怒り狂った妻は、暇の印（いとまのしるし：離婚の証拠）に何かを貰おうと、大きな袋を持って夫の元に飛び帰ります。妻が袋に入れようとしたのは…

狂言「附子」

山一つ向うまで出かける主人は、太郎冠者と次郎冠者に留守番をいっけます。主人は二人に桶を見せ、この中には附子という毒が入っていて、その方から吹く風にあたっただけで死んでしまうくらいだから、絶対に近づかないようにと言い置いて出かけます。しかし、だめだと言われると、やってみたいくなるのが人情。

一休さんの頓知ばなしとしても登場する有名な狂言です。

狂言くらぶとは——

「内子狂言くらぶ」は、内子座創建100周年を契機に発足し、今年で13年目を迎えました。大蔵流狂言師・茂山千三郎先生のご指導のもと、月2回程度のお稽古を行っています。

これまで、内子座を舞台に披露公演を行ってきましたが、保存修理工事期間中は、町内各地を巡り披露公演を実施しています。